

サッカーに学ぶ

サッカーワールドカップでの日本の躍動は、国民に誇りを感じさせてくれました。森保監督が現役時代に味わったドーハの悲劇が、このような形で報われた事を、とても嬉しく思いました。その他にも様々なドラマがあり、人生の縮図を見ているようでした。

中学生の時の思い出ですが、サッカーの対校試合で、0対1で迎えた最後の1分で、コーナーキックのチャンスが来ました。私はゴールポストの右端にいました。左からのキックがゴールの前を横切るように入ってきました。全員にゴールするチャンスがあったのですが、最後の私が足を一步前へ出せばゴールできたシーンでした。しかし、その一步が出せずに負けてしまいました。その事はずっと尾を引き、今もその場面をありありと思い浮かべることができます。あの時の自分は臆病にも、失敗を恐れたのです。以来、事あるごとに、サッカーの苦い思い出がよみがえり、逃げるな、怯むな、恐れるな、と叱咤する自分がいます。

実力を養わないと、失敗する確率は高くなりますので、日頃の訓練や勉強を怠らず、その上に作戦を練って実行すべし、という定石はあります。しかし最後は気力胆力がものをいうことになるようです。決断すべき数々の手術シーンでこのことを経験してきましたが、あの中学時代の失敗がずっと教えになってくれているように思います。

サッカーが教えてくれた、負けるも勝ち、価値ある負け、もあることを実感する今、悔しさは、そこから学ばば必ず報われると思います。次のワールドカップでの日本の活躍を楽しみにしています。

